

1 学校経営計画
別紙のとおり。

2 自己評価

領域	重点目標・具体的取組	達成状況・成果と課題	評価	今後の改善方策	学校関係者評価を踏まえた今後の改善方策
学校運営	<p>①いじめを起こさない体制ならびにいじめが起こった場合の学校全体での指導・対応を一層強化する。</p> <p>②教職員の働き方改革を推進し、具体的な対応を検討するとともに、研究に意欲の持てる環境作りに努める。</p>	<p>①いじめ防止基本方針を改訂し、生徒及び保護者に周知するとともに、生徒が相談しやすい環境づくりに努めた。また、いじめやいじめが疑われる事案が発生した場合には迅速な情報共有と組織的対応をしてきた。</p> <p>②第一に、校務支援ソフトを導入し、業務の効率化を進めることができた。第二に、出退勤管理を厳格化したことで、業務を可能な限り勤務時間内に遂行する意識が高まりつつあるが、教員の意識には個人差も大きく、対応する管理職の時間的・心理的負担が大きくなっている。第三に、入試問題作成段階において専門業者によるチェックの過程を取り入れたことで、作問ミス防止と教員の負担軽減を図ることができた。第四に、今後の新たな部活動の在り方について検討を進めることができた。</p>	B	<p>①生徒観察を丁寧に行うとともに、被害者を守る生徒及び生徒集団を育成するための指導をさらに充実させる。</p> <p>②時間で区切る出退勤管理は教員の働き方とのズレが大きく、教員の望ましい働き方や勤務管理について研究が必要である。また、持続可能な新しい部活動の在り方についても、引き続き検討が必要である。</p>	<p>①いじめ防止については、他者を思いやる心、他者の立場に立ってものを考える力、鋭敏な人権感覚、いじめに立ち向かう勇氣などを一層高めていく必要がある。</p> <p>②より良い教育環境構築のために、教員にとっても生徒にとってもプラスになる働き方改革が必要である。</p>
教育活動	<p>①多様性 (diversity)、公正性 (equity)、包括性 (inclusion) を推進し、みんなで成長できる学校、みんなで幸せになれる学校の実現に努める。</p> <p>②「未来の学校 みんなで創ろう。プロジェクト」を一層推進させ、教科教育及び生徒指導に生かしていく。</p>	<p>①本校で重点的に取り組んだ多様性の教育の研究成果に基づき、他者理解や多様性の尊重を学ぶ特徴ある授業を進めた。</p> <p>②「未来の学校 みんなで創ろう。プロジェクト」を推進させ、教育環境を整備するとともに、研究の成果を教科教育及び生徒指導に生</p>	A	<p>①幼小中連携教育研究の成果を教科教育及び生徒指導に生かしていく。</p> <p>②生徒が「好きに挑む」ためのDプロジェクト及びD講座の継続発展に努める。また、引き続き生徒たちの意見交換や</p>	<p>①多様性を重視した教育の一層の推進が必要である。</p> <p>②生徒が主体的に学びを発見し、深めていくための教育を引き続き推進したい。</p>

	<p>③インターネット、SNSの適切な使用について指導を強化する。</p> <p>④地域の方々と共に生活している意識を育む。</p>	<p>かすことができた。</p> <p>③教育活動において有効に使われているが、不適切使用のもあり、改めてルールの再構築と、その徹底を図る必要がある。</p> <p>④近隣の町会長とも意見交換し、年間を通じて継続的に指導を行った。</p>		<p>議論ができるような場を確保するよう努める。</p> <p>③GIGA 端末の適切な使用ならびに SNS の適切な使用法について、ルールを再確認するとともに、保護者と協力して改善していく必要がある。</p> <p>④登下校時のマナーについて継続的指導を行う。</p>	<p>③GIGA端末の適切な使用ならびにSNSの適切な使用法について、家庭での指導を含めた対応が必要である。</p> <p>④生徒は広い範囲の地域に居住しているので、地域の方々とともに生活している意識を育むことが課題である。</p>
研究活動	<p>①幼少中連携教育・研究について、「未来の学校 みんなで創ろう。プロジェクト」の第二ステージにおける幼小中連携研究の研究主題に取り組み、公開研究会を開催する。</p> <p>②学会や研究会に所属し、最新の知見を得るとともに、自身の指導実践や研究の成果を発表する。</p>	<p>①「未来の学校 みんなで創ろう。プロジェクト」において、外部との連携、誰一人取り残さない学びの保障、教育におけるDXを柱に、本プロジェクトを一層発展させ、第9期3年間の成果の集大成を2025年11月15日開催の公開研究会ならびに研究紀要において発表した。また、生徒の夢を実現させるDプロジェクトを継続して実施し、「好きに挑む」理念のもとでの教育実践の成果をまとめ、書籍として刊行した。</p> <p>②教員が自身の実践研究について学会発表及び学会誌等での論文発表を行った。</p>	A	<p>①特別教室のリニューアルなど、「未来の学校みんな創ろう。プロジェクト」その実装化を進めていき、授業実践などに生かしていく。</p> <p>②引き続き実践研究に取り組み、その成果を発表していく。</p>	<p>①多様性の研究の成果に基づく実践を深めるとともに、実践研究の成果を効果的に発信していく必要がある。</p> <p>②教育実践について、ホームページなどを通して積極的に発信していく必要がある。</p>
学生の教育・支援活動	<p>①教科及び教科教育に関する知識理解の徹底と実践的能力の向上を目指す。</p>	<p>①教育実習生は、教材研究を丁寧に行い、授業実践を重ねることで、教科教育についての理解を深め、指導力を向上させることができた、授業後には、授業者としてのふり返りを行う</p>	A	<p>①引き続き教材研究の意義を事前に実習生に指導するとともに、実習中の学習密度を上げる工夫をする。</p>	<p>教科教育及び生徒指導・学級経営について、専門的な指導をしていく一方で、教員の働き方改革の視点から</p>

	②現在の教育現場の諸問題に適応できるような指導を行う。	とともに、教科内で実習生と指導教員が成果と課題を共有し、次に繋げることができた。 ②学級経営については、課題を出して実習生に議論させる場を設けた。		②教科指導だけでなく学級経営や生徒指導等の体験も積ませる。また、実習生同士で積極的に討論を行い、互いに高めあうような環境を作る。	の改善に努めるとともに、個々の生に応じた指導を強化していくことが課題である。
社会 貢献 活動	「地域のモデル校」「地域の研究拠点校」としての役割を果たしていく。	公開研究会を通して、先導的な教育と研究の成果を広く公開することができた。また、複数の教員が教科書の編集や執筆に関わり、教育界への貢献ができた。地域においては、文京区合同校園長会に校長が出席し、文京区の情報を得た。ただ、文京区教育研究会とは交流の機会が得られなかった。	B	引き続き先導的な教育と研究に取り組み、成果を公開していく。また、文京区の合同校園長会、指導部協議会、文京区教育研究会などに参加し、情報収集を行うとともに地域連携の芽を作るように努める。	「地域のモデル校」「地域の研究拠点校」としての役割を果たしていくことが課題である。また、国際交流などを通して、文化の多様性の理解や国際感覚の醸成を促す教育を強化していく必要がある。

3 その他特記事項

- (1) 本校では、特別な支援を要する生徒や、家庭環境の問題などで外部機関と連携して対応に当たっていく必要のある生徒が多い。個々の事例に適した対応をしているが、教員の負担が増大している。教員の負担軽減を図りつつ、支援を強化する体制づくりが必要である。
- (2) 施設・設備の老朽化で大規模修繕を必要とするケースが目立ってきた。ここ数年で、体育館の床改修、プールの修繕、下校庭のリニューアル、武道場屋根の改修を行ってきた。このうち、武道場屋根の改修以外は、大学から必要な予算措置が講じられず、後援会等からの寄付に頼らざるを得なかった。令和8年度において国の予算で体育館の冷房設置工事ができる見込みとなったが、教室の空調の不具合など、施設の老朽化による問題が頻発するようになっており、抜本的対策が必要である。大学の財務状況も厳しい中、①施設を外部組織に使ってもらう代わりに整備費を出してもらう、②不動産を活用して収入を得る、③基金を設立して活用する、など、新たな枠組みの導入も検討する必要がある。

4 自己評価委員会 開催 2026年3月24日